

九州大学百年史 第2巻 : 通史編 II

九州大学百年史編集委員会

<https://doi.org/10.15017/1801798>

出版情報 : 九州大学百年史. 2, 2017-03-31. Kyushu University
バージョン :
権利関係 :

九州大学百年史 第2巻 通史編Ⅱ 目次

序

凡例

第6編 新制九州大学の発足

第1章 新制九州大学の発足	3
第1節 戦後高等教育の改革	3
(1) 戦後の教育改革	3
戦後高等教育の改革 教育基本法・学校教育法の制定	
(2) 大学設置基準の制定	5
大学基準と大学設置委員会 大学設置基準の制定	
第2節 新制九州大学の発足	8
(1) 新制九州大学の発足	8
国立新制大学実施要領 新制九州大学の創設	
(2) 新制九州大学の管理・運営制度	11
大学法問題 教育公務員特例法の制定 教授会・評議会・協議会	
学長選考基準の制定 停年制度 名誉教授 職員組織と事務機	
構 財政制度 板付基地と九州大学	
第3節 福岡高等学校・久留米工業専門学校の統合と	
分校の設置	25
(1) 福岡高等学校・久留米工業専門学校の統合と分校の設置	25
分校の設置 新制九州大学第1回入学式 第三分校の廃止	
(2) 分校の統合	29
分校の統合 学科別入学の実施	
第4節 文系学部の独立と教育学部の創設	32

(1) 文学部・法学部・経済学部の独立	32
(2) 教育学部の創設	34
教育学部の設置 教育学部附属比較教育文化研究施設	
第5節 附置研究所の再編と増設	37
(1) 生産科学研究所の設置	37
(2) 産業労働研究所の設置	39
(3) 応用力学研究所の設置	41
第6節 大学院と学位制度	43
(1) 新制九州大学大学院の設置	43
戦前の大学院 大学院研究奨学生 新制大学院の設置 新制九州大学大学院	
(2) 新制学位制度	49
新制学位 九州大学の学位規則	
第2章 1950年代の学生生活と学生運動	52
第1節 1950年代の学生生活	52
(1) 学生生活の状況	52
住居問題と学寮 学生生活	
(2) 学生バッジと学生歌	54
第2節 1950年代の学生運動	55
(1) 学友会の再編	55
学部自治会の成立 学友会の再編	
(2) 学生運動の動向	59
第7編 高度経済成長下の九州大学	
第1章 学部の増設と拡充	63
第1節 理工系学部の拡充	63

(1) 理学部の拡充	63
理学部本館の竣工と講座の増設 中央元素分析所 極低温実験室	
附属天草臨海実験所の設置 附属基礎情報学研究施設の設置	
(2) 工学部の拡充	68
建築学科の設置 航空工学科の設置 合成化学科の設置 生産	
機械工学科の設置 電子工学科の設置 化学機械工学科の設置	
鉄鋼冶金学科の設置 動力機械工学科の設置 水工土木学科の設	
置 応用原子核工学科の設置 既設学科の講座増設 コバルト	
60放射線照射実験室	
(3) 農学部の拡充	79
林産学科の設置 食糧化学工学科の設置 既設学科の講座増設	
水産実験所の移転 附属生物的防除研究施設の設置 附属農場	
演習林	
(4) 工業教員養成所	86
工業教員養成所の設置 工業教員養成所の廃止	
第2節 薬学部・歯学部の創設	89
(1) 薬学部の創設	89
薬学科の設置 薬学部の設置	
(2) 歯学部の創設	92
歯学部の設置 歯学部附属病院の設置 歯学部建物の整備	
(3) 医学部の拡充	96
講座の増設 附属結核研究施設の設置 附属がん研究施設の設置	
附属心臓血管研究施設の設置 附属精神身体医学研究施設の設置	
附属脳神経病医学研究施設の設置 附属図書館医学部分館の設置	
診療科の増設 中央診療施設の設置 薬剤部の設置 医学部建	
物の整備	

第3節	文科系学部の移転と教養部の官制化	107
(1)	文科系学部の移転と拡充	107
	文科系学部の移転計画 文科系学部の移転 文科系学部の講座増設 経済学部経済学科・経営学科の設置 文学部附属九州文化史研究施設の設置	
(2)	教養部の官制化	113
	教養部の官制化 人事権の独立 教養部長選考基準の改正 教養学部構想 教養部本館の新築 附属図書館教養部分館の設置 教養部の学生補導機関	
第4節	附置研究所の拡充	123
(1)	応用力学研究所の拡充	123
	高度経済成長期の附置研究所 応用力学研究所の部門増設 附属津屋崎海洋災害実験所の設置	
(2)	生産科学研究所の拡充	126
	生産科学研究所の部門増設 附属九重地熱資源開発実験所の設置 旧法文経建物への移転	
(3)	温泉治療学研究所の拡充	130
	温泉治療学研究所の部門増設 附属病院の設置と建物の改築	
第2章	管理運営体制の整備と創立50周年	133
第1節	組織・制度の整備	133
(1)	執行体制の整備	133
	学長選考基準の改正と総長の交代 学部長会議についての申し合わせ	
(2)	事務機構の整備	135
	事務局の部長制と事務機構の整備 学生部次長制の実施	
(3)	教職員定員の増加	139

教職員定員の変化	教官定員の運用	物理学教室問題	
(4) 入試問題事件		144
ダブルミス事件	不正入試事件	処分問題	入学者選抜実施規則の改正
第2節 大学管理法問題		149
(1) 大学管理問題と大学管理法案		149
大学管理問題	国大協の中間報告案	中教審中間答申の発表	
(2) 大管法反対運動		153
(3) 国会上程の中止と大学運営協議会の発足		154
国会上程の中止	大学運営協議会の発足		
第3節 高度成長下の大学財政		156
(1) 国立学校特別会計法の制定		156
大学財政問題の検討	国立学校特別会計法の制定		
(2) 九州大学の財政状況		159
九州大学の財政	科学研究費		
第4節 創立50周年		163
(1) 創立50周年記念式典		163
(2) 創立五十周年記念講堂等の建設		165
記念講堂・同窓会館の建設	『九州大学五十年史』の刊行		
第3章 高度成長期の学生生活と学生運動		169
第1節 高度成長期の学生生活		169
(1) 大学の大衆化		169
戦後日本経済の発展と科学技術教育の振興	理工系学生の増員計画		
大学志願者の急増と学生増募計画	国立大学施設緊急整備計画		
九州大学の拡充			
(2) 学生の健康管理		177

学生健康管理体制	学生相談室とカウンセリングルーム	保健 管理センターの設置	
(3) 学友会と課外活動			180
学友会	文化サークル	体育サークル	厚生・保健活動
出版部			
(4) 生活協同組合の設立			186
生協設立運動	大学当局との交渉	九州大学生生活協同組合の設立	
第2節 学生会館・学生寮の建設 ……………190			
(1) 学生会館の建設			190
学生会館の建設	九州地区国立大学九重共同研修所		
(2) 学生寮の建設			193
田島寮の竣工	経費負担区分問題	新寮建設問題	松原寮の竣 工
第3節 日米安保闘争と高度成長期の学生運動 ……………198			
(1) 日米安保闘争			198
1950年代後半の学生運動	安保改定反対運動	九学連事件	安 保条約の成立
安保闘争後の学生運動			
(2) 高度成長期の学生運動			202
九州大学の学生運動			

第8編 九州芸術工科大学の創立と発展

第1章 九州芸術工科大学の創立	……………	207
第1節 国立産業芸術大学設置構想	……………	207
(1) 九州芸術大学設置運動	……………	207
(2) 国立産業芸術大学設置構想	……………	209
調査会の設置	専門委員会の設置	

第2節 九州芸術工科大学の創立	214
(1) 「芸術工学」の創造	214
「芸術工科大学」の提案	
「芸術工学」の検討	
検討結果の報告	
準備会の設置	
(2) 九州芸術工科大学の創立	223
(3) 九州芸術工科大学の管理・運営	227
管理運営組織の動向	
キャンパスの整備	
第2章 九州芸術工科大学の発展	236
第1節 大学院の設置	236
(1) 大学院修士課程の設置	236
専攻科の設置	
大学院設置の検討	
大学院修士課程の設置	
(2) 大学院博士後期課程の設置	242
2 大講座制への移行	
連合大学院構想	
博士課程の設置	
社会	
人学生の受け入れ	
学部・大学院の改組	
第2節 附属施設の設置	249
(1) 附属施設の設置	249
附属図書館	
工作工房	
電子計算機室	
多次元デザイン実験棟	
印刷実験棟	
地域共同研究センター	
感性形成センター	
保健	
管理センター	
(2) 管理運営制度の整備	257
管理運営組織の動向	
九州芸術工科大学協会の寄付	
科学研究	
費補助金	
創立記念の式典とイベント	
第3節 社会連携と国際交流	266
(1) 社会連携	266
受託研究	
共同研究	
公開講座	
寄附講座	
芸術工学会	
大橋ショッピングモール構想	

(2) 国際交流	275
国際交流協定の締結 外国人留学生 国際シンポジウム 九州 芸術工科大学の英訳名称	
第4節 九州芸術工科大学の学生生活	286
(1) 学生生活の状況	286
学生寮 学園祭 大学生活に関する調査	
(2) 学生の活動	292
勸進 サークル活動 学生自治会	

第9編 大学紛争

第1章 エンタープライズ寄港問題と米軍機墜落事件	303
第1節 エンタープライズ寄港問題	303
(1) エンタープライズ寄港問題	303
学生運動の動向 九州大学の学生運動 十の日デモ 第一次羽 田事件 エンタープライズ寄港問題 対策会議の発足	
(2) 学生会館の占拠	311
教養部占拠 寄港阻止闘争と九州大学の対応 池田教養部長の辞 任 総長談話の発表 事件後の学内情勢	
第2節 米軍機の墜落と基地撤去運動の展開	319
(1) 米軍機墜落事件	319
(2) 板付基地撤去運動の開始	320
(3) 基地対策委員会の設置	322
基地対策委員会の設置 日米合同委員会	
第3節 機体自主引き降ろしの決定	326
(1) 大型計算機センター再建問題	326
大型計算機センターの再建問題 基地対策委員会の拡充	

(2) 自主引き降ろしの決定	328
自主引き降ろしの決定 引き降ろしにむけての交渉	
第4節 機体引き降ろしをめぐる対立	332
(1) バリケードの構築	332
(2) 対立の激化	334
引き降ろし準備作業の挫折 自主引き降ろしの再確認 8・20 全	
学総決起集会 8・23 事件	
第2章 大学紛争の長期化と拡大	339
第1節 学内意思統一への努力と挫折	339
(1) 基地対策委員会の改組拡充	339
基地対策委員会の改組拡充 仮設センター設置問題	
(2) 各学部の動向	342
教養部の学生討論集会 各学部の動向 学友会・自治会との話し	
合い 自衛官入学問題	
(3) 基地撤去運動と実行連絡委員会の設置	347
大学紛争の動向 基地撤去運動の動向 実行連絡委員会の設置	
ハンディ・トーキー事件	
(4) 建物封鎖の開始	353
文学部封鎖事件 仮設センター計画の動向	
(5) 全学集会の提案と中止	356
全学集会の提案 全学集会の延期 予備折衝 全学集会の中止	
第2節 機体引き降ろし事件	362
(1) 機体引き降ろし作業開始の決定	362
引き降ろし作業開始の決定 12・21 団交 反帝学評と革マル派の	
乱闘事件 引き降ろし作業の開始	
(2) 機体引き降ろし事件の発生	367

機体の引き降ろし	評議員の軟禁事件	
(3) 調査委員会の設置と総長辞任		370
調査委員会の発足	水野総長の辞任	機体引き降ろし事件の報道
四者共闘との「団交」	医学部自治会との団交	調査委員会の報告
	大型計算機センターの仮設	受益者負担問題
第3節 入学試験実施問題と井上総長事務取扱不発令問題		380
(1) 入学試験実施問題		380
東京大学の入学試験中止	大学本部の占拠	教養部試験会場の占拠
(2) 井上総長事務取扱不発令問題		384
井上総長事務取扱の選出	卒業式の中止	4・28 沖縄デーをめぐる動き
	不発令問題に対する対応	
第4節 大学立法問題と大学封鎖の拡大		389
(1) 大学立法問題		389
大学立法問題	無期限スト突入	学長選考基準の改正問題
問田総長事務取扱の選出	大学法案に関する全学教官集会	医学部の大衆団交
	5・20、21 決定問題の拡大	
(2) 大学封鎖の拡大		397
問田総長事務取扱の辞任	大学封鎖の拡大	
(3) 総長選挙の中止と大学法の成立		399
総長選挙の中止と評議員の辞任	大学立法反対運動	井上正治教授の名誉回復訴訟
	谷口総長事務取扱の選出	大学法の成立
	医学部紛争の激化	
第3章 封鎖解除		409
第1節 大型計算機センター建設問題		409
(1) 大型計算機センター建設問題		409

(2) 被害調査問題と建設への努力	410
被害調査開始の公示 再建か解約か	
第2節 封鎖解除	413
(1) 封鎖解除への努力	413
9・9 評議会 夏休み明けの状況 入江評議会臨時議長の選出	
教養部の動向	
(2) 封鎖解除	419
機動隊導入の決定 封鎖解除 機動隊の学内駐留	
(3) 封鎖建物の復旧	425
第3節 総長選挙の実施と授業再開	426
(1) 総長選挙の実施	426
学長選考基準の改正 総長選挙の実施	
(2) 授業再開	428
授業の再開 教養部の授業再開 封鎖解除後の学生運動 生協	
問題	
第4節 医学部の混乱	434
(1) 医学部の混乱	434
医学部の混乱 授業再開問題	
(2) 医学部のスト解除	437
スト解除決議 臨床研修医の研修復帰 医学部の卒業式	
第5節 大型計算機センターの完成	440
(1) 大型計算機センターの被害調査	440
(2) 大型計算機センターの完成	441
休業補償問題 大型計算機センターの完成	

第10編 紛争後の大学改革

第1章 大学改革の模索	447
第1節 九州大学大学制度委員会	447
(1) 九州大学大学制度委員会の設置	447
大学制度委員会（仮称）設立準備委員会 九州大学大学制度委員会の設置	
(2) 大学制度委員会の報告	450
中間報告 中教審の基本構想試案 第二次報告 第二次報告の取り扱い 第三次報告 第三次報告の取り扱い	
(3) 大学制度委員会の消滅	459
大学制度委員会の解散決議 国大協の対応と中教審の最終答申	
第2節 将来計画小委員会と春日原移転問題	
(1) 将来計画小委員会の設置	462
(2) 春日原移転問題	463
春日原移転問題 春日原全面移転の正式決定 移転推進運動の実施 地元の移転反対 全面移転の断念	
(3) 将来計画小委員会の報告	470
第2章 筑紫地区の建設	472
第1節 筑紫地区の建設	472
(1) 春日原地区整備計画	472
春日原地区国有地の受領 春日原地区整備計画	
(2) 筑紫地区の建設	475
筑紫地区の建設 第二次留保地の受理 移転の完了と建物の整備	
第2節 大学院総合理工学研究科の設置	479
(1) 大学改革と学際大学院の構想	479
大学院設置の拡大 大学院改革の動向 国大協の大学院改善案と	

九州大学の意見 大学設置審議会の答申 大学院設置基準の制定	
九州大学大学院学則の改正 独立研究科と独立専攻 独立専攻の設置 九州大学学際大学院構想	
(2) 大学院総合理工学研究科の設置	491
(3) 総合理工学研究科の拡充と筑紫移転	493
(4) 医学系研究科の設置	494
第3節 健康科学センターの設置	496
(1) 教養部改革と健康科学センター構想	496
(2) 健康科学センターの設置と筑紫移転	497
第3章 学部・大学院の拡充	500
第1節 文科系学部の拡充	500
(1) 文科系学部の拡充	500
文学部の拡充 教育学部の拡充 法学部の拡充 経済学部の拡充	
(2) 記念事業の実施	503
法学部・経済学部創立 60 周年 法学部・経済学部創立 70 周年	
(3) 文科系建物の増築	505
第2節 理工系学部の拡充	506
(1) 理学部の拡充	506
講座の増設と建物の整備 原子核実験室 附属島原地震火山観測所 理学部創立 50 周年	
(2) 工学部の拡充	510
情報工学科の設置 資源工学科の設置 建設都市工学科の設置 機械工学科、知能機械工学科、機械エネルギー工学科の設置 応用物質化学科の設置 材料工学科の設置 船舶海洋システム工学科の設置 講座の増設と振替 建物の整備 附属超伝導科学研究	

センター 附属地熱開発センター 附属環境システム工学研究センター 工学部創立 75 周年	
(3) 農学部 of 拡充	520
講座の増設 附属家蚕遺伝子実験施設 建物の整備 附属農場 高原農場実験実習場 附属演習林 農学部創立 50 周年 農学部創立 65 周年	
第 3 節 医学系学部 of 拡充	526
(1) 医学部 of 拡充	526
講座の増設 附属動物実験施設 附属統合教育研究実習センター of 設置 附属病院 of 拡充 看護部 of 設置 無給医 of 廃止 医学部建物の整備 医学部創立 75 周年	
(2) 歯学部 of 拡充	536
講座の増設と附属病院 of 拡充 歯学部建物の整備	
(3) 薬学部 of 拡充	538
講座の動向と薬学部本館 of 増築 附属薬用植物園	
第 4 節 医療技術短期大学部 of 設置	539
(1) 医学部附属 of 諸学校	539
(2) 医療技術短期大学部 of 設置	541
(3) 医療技術短期大学部創立 20 周年	544
第 4 章 教養部 of 改革	546
第 1 節 教養部問題	546
(1) 教養部問題	546
一般教育 of 動向 九州大学教養部 of 問題	
(2) 教養課程 of 改革案	548
教養課程における最低修得単位数 of 削減 第二種一般教育	
第 2 節 総合学部構想 of 挫折	552

(1) 総合学部構想の登場	552
教養部在学年限短縮案 総合学部構想	
(2) 総合学部構想の挫折	556
総合学部構想の挫折 学生増募問題	
第3節 一般教育の改善	558
(1) 一般教育の改善	558
総合科目 九州地区国立大学間合宿共同授業 教養部ゼミナール	
学科目の増設	
(2) 留年問題	562
(3) 建物の整備	563
第4節 共通一次試験の導入	563
(1) 入学試験制度改革の試み	563
新制大学の入学試験制度 能研テスト 推薦制度の実施 入学	
主幹の設置	
(2) 共通試験構想	568
共通試験構想 共通一次試験の調査研究	
(3) 共通一次試験の導入	571
共通第一次学力試験の実施 九州大学の第二次試験 入学辞退者	
と定員の確保 共通一次試験の問題点 帰国子女の特別選抜	
第5章 附属図書館・研究所等の整備・拡充	578
第1節 附属図書館の整備	578
(1) 中央図書館の建設	578
利用者サービスの充実 中央図書館の新築移転問題 中央図書館	
の建設 附属図書館整備充実構想 図書館業務の電算化	
(2) 分館の建設	587
教養部分館の建設 医学分館の建設	

第 2 節 附置研究所の再編と拡充	590
(1) 産業労働研究所の廃止	590
研究所問題 産業労働研究所の整備拡充計画 産業労働研究所の 廃止	
(2) 生体防御医学研究所の設置	593
温泉治療学研究所創立 50 周年 生体防御医学研究所の設置	
(3) 応用力学研究所の拡充	596
部門の増設 筑紫地区への移転 附属強磁場プラズマ・材料実験 施設の設置	
(4) 機能物質科学研究所の設置	599
生産科学研究所の部門増設 筑紫地区への移転と附属地熱開発セン ターの設置 機能物質科学研究所の設置	
第 3 節 学内共同施設の増設	602
(1) 学内共同利用施設の設置	602
(2) 生物環境調節センター	603
(3) 熱帯農学研究センター	604
(4) 石炭研究資料センター	606
(5) アイソトープ総合センター	607
(6) 中央分析センター	609
(7) 遺伝情報実験施設	611
(8) 超高压電子顕微鏡室	612
(9) 特殊廃液処理施設	614
第 6 章 管理運営制度の改革	616
第 1 節 学長選考基準の改正	616
(1) 「学長」「総長」呼称の変更	616
総長呼称の廃止 総長呼称の復活	

(2) 学長選考基準改正と学長選挙	618
学長選考基準の改正と学長選挙—その 1 学長選考基準の改正と学	
長選挙—その 2 学長選考基準の改正と学長選挙—その 3 学長	
選考基準の改正と学長選挙—その 4	
(3) 学部長選定内規の改正	626
第 2 節 教職員と事務組織の改革	629
(1) 教職員定員の削減	629
定員の削減 定員運用についての申し合わせ 事務職員の定年制	
名誉教授授与要件の緩和 本部第二庁舎の建設	
(2) 待遇改善と福利厚生	635
待遇改善 教職員の福利厚生と保育所 技術職員問題	
第 3 節 創立 75 周年	641
(1) 創立 75 周年事業計画	641
(2) 創立 75 周年式典	642
(3) 『九州大学七十五年史』の刊行	643
第 7 章 国際交流の再開	646
第 1 節 交流協定の締結	646
(1) 国際交流委員会の設置	646
(2) 交流協定の締結開始	647
交流協定の締結 国際交流基金の創設	
第 2 節 学術交流	653
(1) 文部省在外研究員	653
(2) 戦後の学術交流	654
外国人研究者の受け入れ 名誉博士 外国人教員の採用	
第 3 節 学生の海外留学と外国人留学生	659
(1) 学生の海外留学	659

(2) 外国人留学生の増加	660
外国人留学生の受け入れ 九州大学の留学生 留学生教育	
(3) 留学生教育センターの設置	664
留学生センターと留学生専門担当教官の配置 留学生教育センター	
の設置 留学生白書 留学生会館の建設 九州大学国際親善会	
と九州大学留学生会	
第4節 創立80周年記念事業	670
(1) 創立80周年記念事業募金の開始	670
(2) 創立80周年記念事業実施計画の変更	671
第8章 情報化の開始	675
第1節 情報化時代の到来	675
(1) 情報化時代の到来	675
(2) 中央計数施設・大型計算機センターの設置	676
中央計数施設の設置 大型計算機センターの設置 大型計算機セ	
ンターの拡充 総合情報伝達システム KITE の完成	
(3) 事務の電算化	682
第2節 情報教育の開始	684
(1) 情報処理教育センターの設置	684
(2) 情報処理教育の進展	686
第9章 大学紛争後の学生生活と学生運動	688
第1節 大学紛争後の学生運動	688
(1) 70年安保・沖縄返還闘争	688
オリエンテーション問題 70年安保反対闘争 全共闘の進出と	
内ゲバの激化 東病棟建設阻止問題 教職専門課程問題 看護	
婦任用問題 教養部の動向	
(2) 学費値上げ反対運動	698

授業料値上げ反対運動 排水処理問題 学生運動の変化 学生会館の改修

第2節 学生気質の変化……………705

(1) 学生生活……………705

学生の出身地 女子学生 授業料と奨学金 入学式と卒業式
就職状況

(2) 学生団体……………714

サークル活動の動向 中央体育館の建設 課外活動共用施設の建設
九大祭 体育祭

第3節 学生寮と福利厚生施設……………724

(1) 学生寮の新築……………724

女子寮の建設 田島寮の新築

(2) 福利厚生施設の建設……………725

第11編 教養部の廃止と学際大学院の設置

第1章 言語文化部の設置と教養部改革の再模索……………731

第1節 言語文化部の設置……………731

(1) 言語文化部設置構想……………731

(2) 言語文化部の設置……………733

言語文化部の設置 教養部との関係

第2節 教養学部設立構想……………737

(1) 1988年のカリキュラム改革……………736

(2) 教養学部設立構想……………739

教養部の将来構想 教養学部構想の審議

第3節 教養学部構想の挫折……………745

(1) 教養学部構想の挫折……………745

(2) 「環境地域学部」「基礎科学研究教育部」案	746
第2章 入試制度の改革	750
第1節 受験機会の複数化と大学入試センター試験の導入	750
(1) 18歳人口の増加と臨時定員増	750
(2) 受験機会の複数化	753
(3) 分離分割方式への移行	756
(4) 大学入試センター試験の導入	759
第2節 推薦入試と社会人入学	762
(1) 推薦入試	762
(2) 社会人入学	764
社会人入学の開始 大学院の社会人入学 大学院社会人入学の拡大	
(3) 編入試験の拡大	769
編入試験の拡大 「飛び級」	
第3章 教養部の廃止と学際大学院の設置	772
第1節 教養部の廃止と全学共通教育への再編	772
(1) 専門教育拡大要求	772
「九州大学における教育改革の大綱」 全学共通教育の改革	
(2) 教養部の廃止	777
(3) 全学共通教育の開始	780
全学共通教育の開始 「ハウス」構想	
第2節 比較社会文化研究科・数理学研究科の設置	785
(1) 学際大学院設置構想	785
学際大学院設置構想 「生命科学研究科」構想 「総合社会科学研究科」構想から「比較社会文化研究科」構想へ 総合理工学研究科大気海洋管理システム専攻の設置 学際大学院設置構想と新キャン	

ンパス基本構想	
(2) 比較社会文化研究科の設置	791
(3) 数理学研究科の設置	798
第3節 学内共同教育研究施設等の設置	801
(1) 有機化学基礎研究センターの設置	801
(2) 学内共同利用施設等の設置	804
西部地区自然災害資料センター	
電離気体実験施設	
大学史料室	
第4章 社会連携の拡大	809
第1節 社会連携の前史	809
(1) 戦前・戦後期の「社会連携」	809
戦前期の「社会連携」	
戦後期の「社会連携」	
(2) 高度成長期の「社会連携」	811
各種研究会の開催	
久山町研究	
福岡市民大学セミナー	
第2節 社会連携の拡大	814
(1) 受託研究・共同研究の受入	814
受託研究の受け入れ	
発明規則の制定	
共同研究の受け入れ	
先端科学技術共同研究センターの設置	
研究協力課の設置	
(2) 公開講座	823
(3) 寄附講座の設置	824
(4) 九州大学出版会	826
第5章 バブル期前後の学生生活	828
第1節 バブル期前後の学生運動	828
(1) 1980年代の学生運動	828
(2) バブル期以降の学生運動	830
第2節 バブル期前後の学生生活	831
(1) 学生生活	831

学生の出身地	授業料と奨学金	学生生活実態調査	
(2) 就職状況		835
第3節	バブル期前後のサークル活動	836
(1) サークルの動向		836
(2) 共用施設の間仕切り問題		839

図表一覧